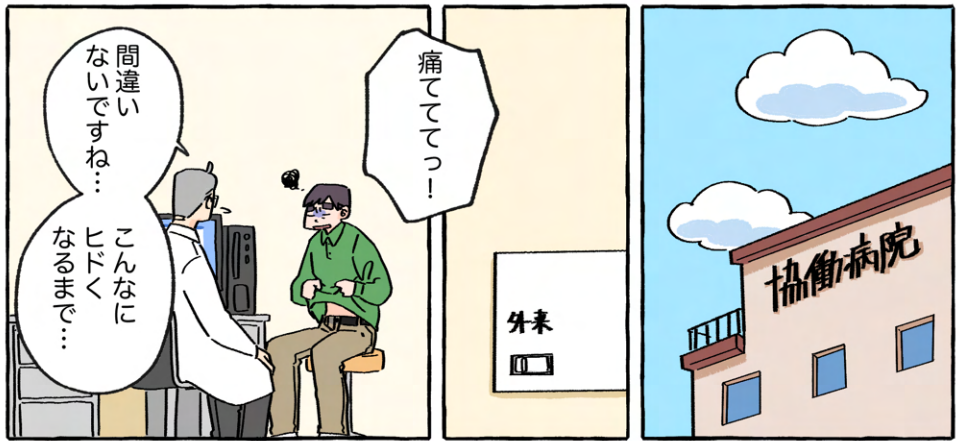


# プライマリ・ケアにおける 患者協働の実践

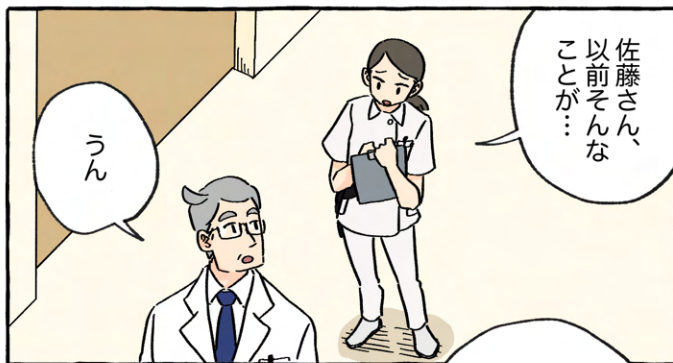
AHRQエンゲージメントツールを使おう



発行：日本プライマリ・ケア連合学会  
医療の質・患者安全委員会



※HbA1c：糖尿病の指標。赤血球中に含まれるヘモグロビンにブドウ糖がくっついている値。



うん

佐藤さん、  
以前そんな  
ことが...



すみません

...

昔お母様が  
病気について  
十分に説明を受けて  
いなかった事が  
原因で、症状が悪化  
したんだって

十年前



それで  
医療に  
不信感が...



佐藤さん、  
ちゃんと  
説明した  
でしょ？

●とある医師



はい

確かそれらが  
起きた  
大半の原因が  
『一度では  
覚えられ  
なかった』  
ですよ



だから医療者は  
患者安全を  
向上させるため、  
『エンゲージメント』  
を徹底していく  
必要がある

診断方法や  
治療法が  
上手く伝わって  
なくて起こる  
診断エラー  
だけど、

外来患者の  
20人に1人が  
経験している  
って調査結果は  
知ってる？

外来患者の20人に1人が  
診断エラーを経験している

55%  
の外来患者が  
診断エラーが  
主な関心事  
と答えた

救急入院の  
9人に1人が  
薬剤副作用に関連

1年あたり約  
160万件  
の医療  
エラーが  
アメリカの  
ケアで  
起きている

最大80%  
の共有された情報を患  
者がすぐに忘れていた

※診断エラー：診断ミスとは異なり、医療者の知識や技術だけでなく、設備や情報の不足、また患者への説明不足から起こる暫定診断の誤り。



エンゲージメントとは？  
〜4つの取り組み〜

まずは  
その1  
同じ目的に  
向かって力を  
合わせよう

その1  
患者と医療者が  
『協働』する  
ための準備

佐藤さん



…メモ？



お薬手帳でも  
メモ帳でも  
電子アプリでも、  
チラシの裏だつて  
構いません

好きなやり方で  
良いので  
訊きたいことを  
メモしてみましょう

…面倒  
クセエな



内科医や看護師は  
もちろん、眼科医、  
リハビリ療法士、  
薬剤師。

これで  
『訊きたかった  
のに忘れた』  
が無くなり  
納得のいく  
治療を受けて  
満足感を  
得られる



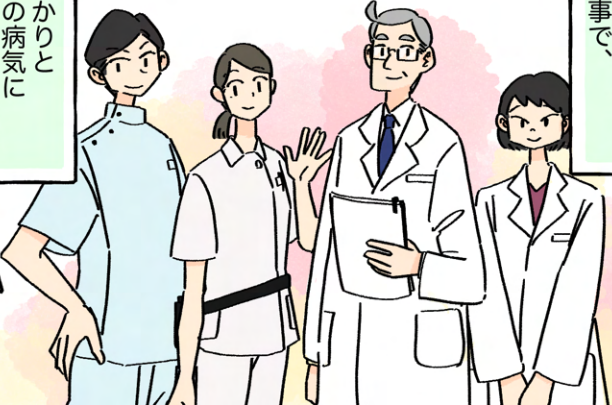
…ったく

そして、沢山の人が  
自分の病気を  
見てくれていると  
いう事で、

しっかりと  
自分の病気に  
向き合おう、という  
意識が生まれます



カリ  
カリ…











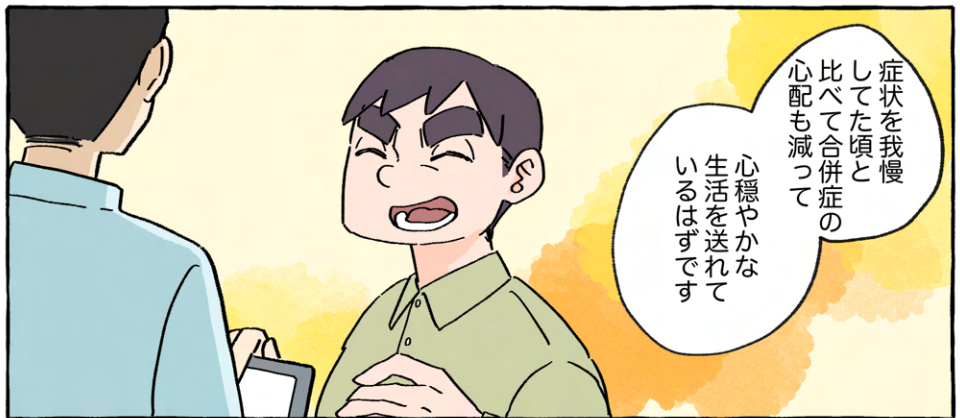
えっと、だから  
メンよりの  
野菜を先に  
食べることで  
糖の吸収を  
抑えて！

患者さんに、『自分の言葉』に  
してもらい、  
理解を促す事で、  
疑問点が解消し、  
診断エラーを  
防ぐことに繋がるんだ

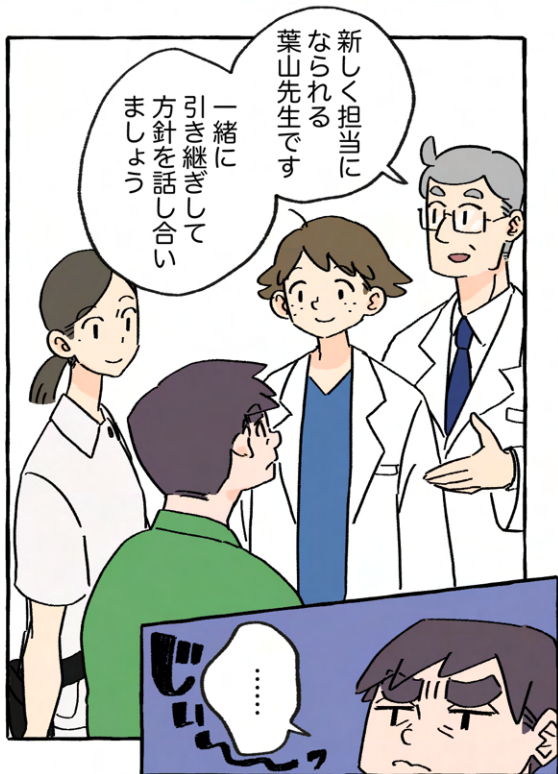
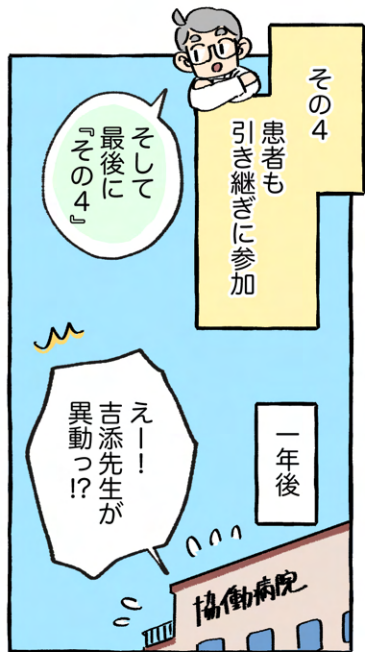
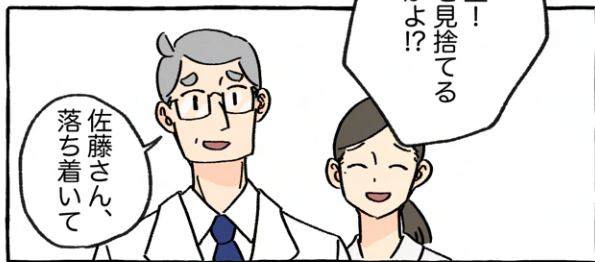


佐藤さん、  
だいぶ慣れて  
きましたね

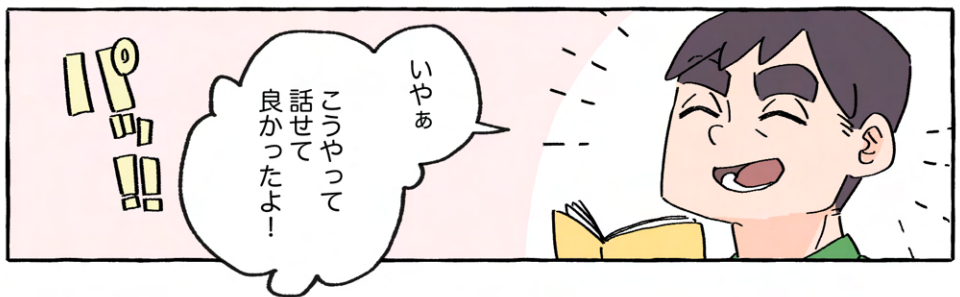
えっと、  
家の掃除を進んで  
することで  
座って過ごす  
時間も減らせて、  
かあちゃんの  
機嫌も良くな  
って  
一石二鳥で…

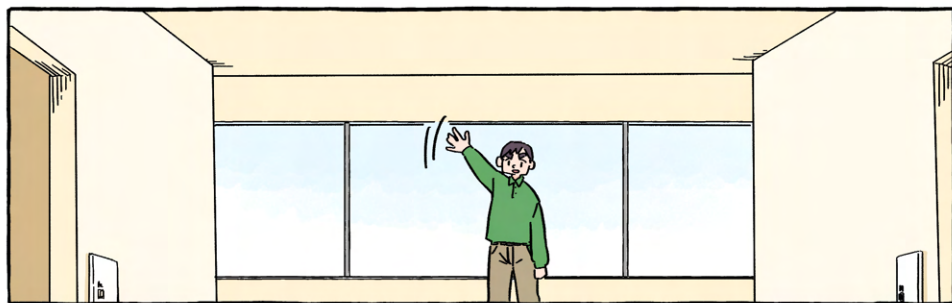
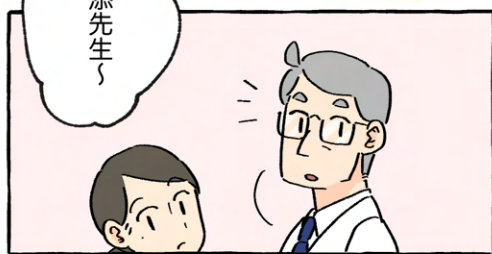


症状を我慢  
してた頃と  
比べて合併症の  
心配も減って  
心穏やかな  
生活を送れて  
いるはずですよ











佐藤さん、治療に前向きになって、表情も明るくなりましたね

これからチームで頑張っていきましょう



ああ、先生に診てもらって良かった  
ありがとな



ずっと見て見ぬフリしてたけど、俺はおっかねえ病気だったんだな



これからは患者一人ひとりが、何を目的にするか、何を大切にするかを尊重し、



患者さんがずっと笑顔でいられるよう、我々も頑張りますよ！

はい！

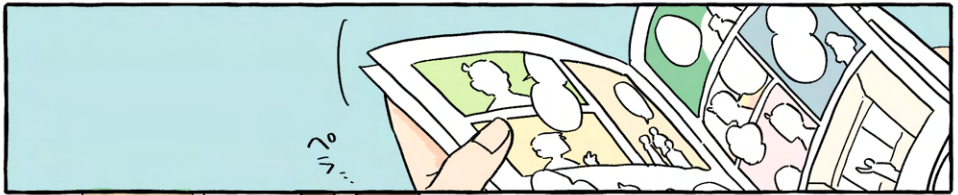
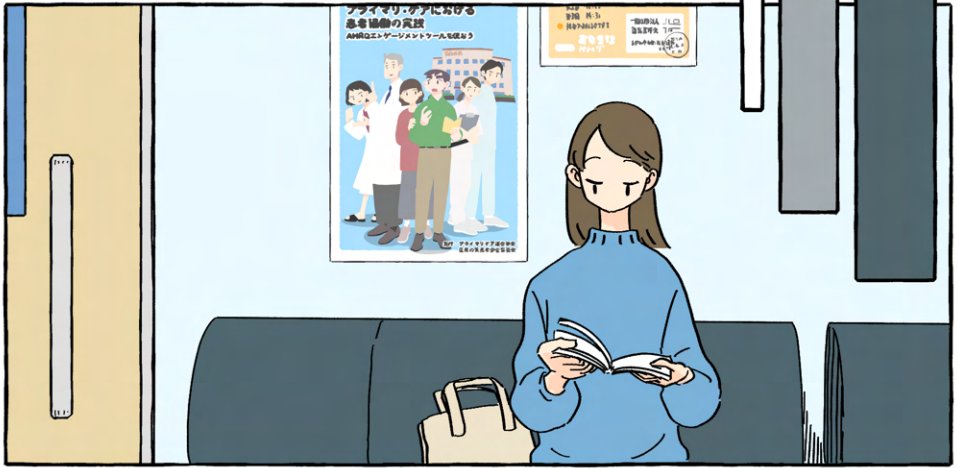


うん  
だからエンゲージメントが大切なんだ

それに合わせた医療サービスの提供が医療者に求められます

患者さん中心の患者参加型医療ですね





## **プライマリ・ケアにおける患者協働の実践 AHRQエンゲージメントツールを使おう**

---

発行 : 日本プライマリ・ケア連合学会  
医療の質・患者安全委員会

作画 : 十六夜書房

文 : 廣木俊文

制作協力 : 佐伯啓

---